

### 四極会 第31回登山会（元号が令和に変わって初めての登山会）

- ・日 時、 令和元年5月11日（土） AM7時出発
- ・行 先、 大分県と宮崎県の県境・傾山（1602m）
- ・集合場所、 大分駅南口（上野の森口）
- ・参加人数、 19人

本日は、絶好の登山日和である。乗用車、レンタカーに分乗し、定時に出発した。中九州道・千歳ICを經由し、宇目町・上小野市のスーパーの駐車場で休憩をとる。326号線のトトロ交差点を右折し、県道6号（日の影宇目線）を進み、杉ヶ越トンネルを過ぎて宮崎県に入る。峠から約4km進み、右折していよいよ奥村林道へと入る。林道入り口から最奥部まで約10kmを進み、9:40分、やっとという感じで駐車場所に着く。ここが登山口になっている。

準備運動の後、リーダーの加藤英彦さん（大14）が先導し登山を開始。すぐ先に、乗用車が1台止まっている。渡部昭三さん（大10）が先着していると確信。10:25分、登山路の途中に、水場があった。加藤さんから、昔は（水量が豊富だったようで）縦走路からここまで下りてきて水を汲み、風呂もあったとの説明を聞く。古い風呂釜が風雨に晒されていた。20分程して、10:41分、九折越に着く。高橋秀武さん（大21）はここで我々の帰りを待つことになった。加藤さんが頂上到着予定は13:00頃だろうと…。東方に遠く傾山の岩峰が見え、山腹にピンクの色が見える。歩きやすい広い県境の稜線である。

11:11分、最初のピークで休憩。後傾<sup>うしろかたむき</sup>、本傾<sup>ほんかたむき</sup>、前傾<sup>まえかたむき</sup>と右から三つの岩峰が眼前に迫る。山腹のピンクがよりはっきりと見える。いよいよ最初に登る後傾の岩場を見上げ心を引き締める。岩角や木の根に手や足をかけてよじ登る。登る途中で見えたピンク色の殆どがアケボノツツジであった。ミツバツツジも少しはあったか、白い花はオオカメノキ（ムシカリ）だった。荒々しい岩肌と山々の新緑、ピンクの花と白い花が、なんとも美しく調和している。写真では写しとれない絶景が広がり祖母山系につながる山並みが良く見渡せる。あらためて「あれが祖母、障子岳……」と説明を受ける。

後傾から一旦鞍部に下り、本傾頂上へと再度登る。この鞍部から見る景色が、またなんと美しいことか。12:30分、本傾頂上に着く。渡部昭三さんと合流しこれで全員19人が揃った。昼食休憩の後、木山広喜さん（大10）揮毫の「令和」の半紙を持って記念撮影する。

13:08分、下山を開始。順調に往路を引き返し、14:34分、九折越に着き高橋さんと再会をする。15:30分、駐車場所の登山口に無事到着する。帰路についてから、予期しなかった車の故障に直面し、時間がかかり下がったので、予定した「唄げんかの湯」での入浴は中止し先を急いだ。九州きっての名山への登頂を無事果たせたことに対し、世話人の皆さんに感謝したい。特に、加藤リーダーのトラブルへの臨機の対処は、山男の神髓の一端を垣間見た思いがしました。有難うございました。（記録：大学16回、城井勉）



